

みんなで考える

連載 自治基本条例の制定に向けて②

市の憲法

づくり

住民主体のまちづくり

「住民自治の確立」いわば、住民による住民のためのまちづくりは、住民と行政が共に肩を並べて歩まなければ成り立ちません。住民が自らまちづくりについて考え、行動に移す。行政はそのパートナーとして橋を架け、最小の経費で最大の効果を上げる——こういった関係を築く土台となる「まちづくりの意識」について一緒に考えてみましょう。

住民一人一人が持つまちづくりの意識が、地域をより活性化させる

住民によるまちづくりへの参加は、ボランティアやNPOの活動が活発化しているように、少しずつ意識が高まっています。これからのまちづくりは、行政が主導するのではなく、住民も行政と役割を分担する「協働のまちづくり」が重要です。



いるすべての人にとって安全な生活が保たれ、日常生活に支障がなく、心豊かに暮らせること。住んで良かったと思えるまちです。そうすると、まちづくりとはわたしたちにとって「暮らし」そのものと言えます。わたしたちは、日々の生活の中で暮らしやすさを求めて、さまざまな思いを持っています。「バスの本数が増えたら便利なのに」「近くに公園があったらいいな」「道路の草やごみが気になる」「子どもの生活・教育環境の整備を」というように、何気なく期待や疑問を持っています。

まちづくりに必要なことは、自分たちの生活にある身近なことについて常に関心を持ち、解決のため考え、進んで行動に移すことです。こういった考えが意識の向上となり、まちづくりへとつながるのです。



市が資材を用意し、姉妹振興会（水沢区）の労力提供による歩道の整備（昨年11月）

まちづくりの意識を行動に移すことは、難しいことはありません。例えば、道路の草やごみが気になるのであれば、町内会や自治会で取り組むことで、地域コミュニティの活性化にもつながります。もし地域の取り組みだけでは不可能なのは、行政に投げかけてみる方法もあります。何事にも無関心ではいつまでもたっても何も変わりません。自分の暮らしや地域を良くしていくためには、自分たちで何ができ、何ができないかを考え、判断し、行政と役割を分担するこ

とで、住民主体のまちづくり、まちの活性化へと進んで行くのです。

8月号ではまちづくりを進める仕組みについて考えます

水沢区・市営浄化槽事業 PFI手法導入し 本年度から 民間企業が整備 奥州浄化槽整備株

市は、公共下水道・農業集落排水の整備済み区域や計画区域を除く区域の希望者に、市営浄化槽を設置しています。

本年度から水沢区内に設置する市営浄化槽は、PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブの略）という整備手法を導入しました。

この手法は、公共施設などの建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力、技術的能力を活用することで、市の事務や経費の効率化、民間企業の育成などにつなげていこうとするものです。

市は6月22日、この事業のために新たに設立された奥州浄化槽整備株式会社（紺野正明代表取締役）と契約を結び、浄化槽の設置、維持管理を委ねることになりました。

水沢区内で市営浄化槽の設置を希望する人は、下記へお問い合わせください。

■問い合わせ＝奥州浄化槽整備株（水沢区佐倉河字前田19-1、☎08585）、または水沢総合支所下水道課（内線 374）

市の出来事から

市の花鳥木がモザイクレリーフに

6月25日、市の花・鳥・木をデザインしたモザイクレリーフが市役所本庁舎1階市民ホールにお目見えしました。

市の花（さくら）・鳥（きじ）・木（もみじ）は、公募案を基にことし2月20日、合併1周年に合わせて制定されました。レリーフは、この3つをベネチアガラスや大理石などを組み合わせて表現され、東北美芸研究所（水沢区）の内田真之所長が制

作しました。ベネチアガラスなどの素材は、本場イタリアから取り寄せたものです。

披露に先立って行われたレリーフの受贈式では、相原正明市長と寄贈した岩手江刺農業協同組合の今野清一組合長が除幕。今野組合長は、今後市民の出迎え役となるレリーフに「多くの人の目に触れ、愛されるよう願っている」と期待を込めていました。



除幕されたモザイクレリーフ

フロンティアパークに立地相次ぐ

工場立地調印式



江刺フロンティアパークに進出を決めた有限会社アイエムティ（本社水沢区、佐藤本代表取締役社長）と市との立地調

握手をする佐藤社長（左から3人目）ら

印式は6月5日、市役所で行われました。調印式には、同社の佐藤社長をはじめ、県、市関係者ら11人が出席しました。席上、佐藤社長と相原正明市長が協定書を押印して交換後、固い握手を交わしました。同社は平成12年創立。半導体製造装置部品の加工を専門に業績を伸ばしています。好調な受注に対応するため自社工場を新設し、ことし9月の操業開始を予定しています。フロンティアパークへの立地は、本年度既に1社が決定しており、同社で2社目。通算では7社になりました。

水沢の中山さんがめでたく満百歳

水沢区字龍ヶ馬場の中山でうさんが満100歳を迎えた6月8日、原田守水沢区長が中山さん宅を訪れ、記念品を贈りました。

中山さんの長寿の秘けつは「生きてる限りは働く」心構え。早くに夫を亡くし、懸命に働いて4男4女を育て上げました。駆け付けた子どもらに「大勢の人が来てくれてうれしい。ありがとう」と感謝していました。



周囲の人にも謝意を表す中山さん